

企画展

橋本左内って知ってるかい？

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会期 平成29年1月25日(水) ~ 3月21日(火)
- 休館日 2月6日(月)、27日(月)、28日(火)

幕末福井の俊才・橋本左内が、どんなことを考え、どんな業績を残し、どんな生涯を送ったのかを、当館所蔵の遺品や関係資料によりわかりやすく紹介します。

左内の生い立ちと少年時代

橋本左内は、天保5(1834)年3月11日、福井城下常盤町(現在の春山2丁目)に福井藩医の子として生まれました。幼少の頃から秀才として知られ、10歳の時には『三国志』を読破し周りの人々を驚かせたといいます。また藩の医学学校である濟世館で漢方医学を、藩の儒学者である吉田東篁の塾では儒学をはじめとする中国の学問を学びました。そして15歳の時に、あの有名な『啓発録』を著して、自分を律し、人としてのあるべき姿を示しました。

大坂・江戸へ行き学問に励む

嘉永2年(1849)、16歳の時、左内は大坂へ赴き、蘭学者・緒方洪庵の適塾(適々齋塾)で3年間、蘭学や西洋医学を学びました。嘉永5年(1852)、19歳の時、父が亡くなり藩医を継ぎますが、学問を一層深めたいという思いは止めがたく、安政元年(1854)には藩の許可を得て江戸に上り、坪井信良・杉田成卿に蘭学を、塩谷宕陰に漢学を学びました。その秀才ぶりは水戸藩の著名な儒学者である藤田東湖からも高く評価し、やがて福井藩主松平慶永(春嶽)も知るところとなります。左内は安政2年(1855)10月には藩医の職を解かれ、御書院番に登用されて、福井藩を担う人材として期待されるようになりました。また江戸では西郷吉兵衛(隆盛)をはじめ、多くの志士たちと交流しました。



橋本左内肖像画 当館蔵

藩校・明道館の指導者として

安政4年(1857)1月、左内は24歳という若さで藩校・明道館の学監同様心得(現在の校長先生のような役職)に任命されました。時代にあった生きた学問の重要性を説き、洋書習学所や算科局を新たに設けました。また西洋の学問を学んでも、その心はあくまで日本や東洋の思想を重んじるべきであるという「和魂洋才」を説きました。

藩主松平慶永の側近として国のために奔走する

安政4年(1857)8月、左内は侍読兼御内用掛を命じられ、春嶽の側近として働くことになります。この頃幕府は、アメリカの開国要求(日米修好通商条約の締結交渉)と、この難局に立ち向かう將軍の跡継ぎを誰にするかという2つの大きな課題を巡って混乱しており、福井藩や薩摩藩などの有力な大名がこの問題解決に関与するようになっていました。左内は松平慶永の懐刀として、次期將軍に英邁な一橋慶喜を擁立する活動に従事し、江戸や京都で有力者を次々に説得していきました。

安政の大獄-左内の死

安政5年(1858)6月、左内の活動は結局実を結ぶことなく、次期將軍は大老井伊直弼が推す紀州藩主徳川慶福に決まりました。また7月には、幕府が天皇の許可無く日米修好通商条約を結んだことに抗議した藩主松平慶永が、幕府から隠居謹慎を命じられます。責任を感じた左内は切腹しようと思しますが、慶永に止められ硯箱を賜って慰勞されました。

安政5年10月、井伊大老が主導する安政の大獄によってついに左内も捕らえられました。幕府の役人が行った訊問に対しても左内は堂々と受け答えし、それに対する幕府の裁定は当初「遠島(島流し)」でしたが、井伊大老によって一段重い「死刑」に訂正されたとされています。

安政6年(1859)10月7日、左内は江戸伝馬町の獄舎の庭で斬首され、26歳という短い生涯を閉じました。

【年表】橋本左内の生涯と主な出来事

和暦	西暦	月日 (旧暦)	出来事	数え年
天保5年	1834	3月11日	福井城下の常盤町(現、春山2丁目)に、藩医の子として生まれる。	1歳
天保9年	1838	10月	松平慶永(春嶽)、16代福井藩主となる。	5歳
天保14年	1843		『三国志』を読破する。	10歳
弘化2年	1845		藩の医学所・濟世館で漢方の医術を学ぶ。 また藩の儒学者・吉田東篁の私塾に入門して儒学を学ぶ。(15歳の時との説もある)	12歳
嘉永元年	1848	6月	元服する。自らの心構えを示した『啓発録』を著す。	15歳
嘉永2年	1849	冬	大坂に遊学。緒方洪庵の適塾(適々斎塾)に入門して蘭学や西洋医学を学ぶ。	16歳
嘉永4年	1851		梅田雲浜、横井小楠に会う。	18歳
		12月	父長綱の病により、福井への帰国を要請する。	
嘉永5年	1852		閏2月1日 大坂より福井へ帰る。	19歳
		10月8日	父長綱が病死する。	
		11月	家督を相続して藩医となる。	
安政元年	1854		2月22日 江戸遊学へ出発する。	21歳
		3月	江戸の蘭学者・坪井信良と杉田成卿、儒学者・塩谷宕陰にそれぞれ入門する。 この年、少しずつ他藩の藩士たちと交流するようになる。	
		6月14日	水戸藩の儒学者・藤田東湖より海防についての意見を聞く。	
安政2年	1855		7月末 藩命により福井へ帰る。	22歳
		10月	藩医を免じられ、書院番となる。	
		11月28日	再び江戸へ行く。	
		12月27日	西郷吉兵衛(隆盛)と対面、交流が始まる。	
安政3年	1856		2月10日 左内の理解者であった鈴木主税が病死する。	23歳
		6月14日	福井へ帰る	
		7月17日	藩校・明道館の講師同様心得、蘭学掛となる。	
		9月24日	明道館の幹事兼側役支配となる。	24歳
安政4年	1857		1月15日 明道館の学監同様心得となる。	
		4月12日	左内の建議により、明道館内に洋書習学所を設ける。	
		5月	「制産」についての建議書を起草する。	
		8月7日	江戸詰を命じられ、福井を発つ。	
		8月20日	侍読兼御内用掛に任命される。	25歳
		11月28日	村田氏寿に、日露同盟論・統一国家体制を説いた書状を送る。	
安政5年	1858		1月14日 幕臣川路聖謨を訪ね、將軍継嗣問題について尽力を要請する。	
		2月～	上京し、桃井伊織を名乗って、將軍継嗣問題について、官家や公家への説得工作を行う。	
		4月11日	江戸に帰着。	
		4月18日	御側向頭取格に就任。	
		4月23日	井伊直弼、大老に就任する。	
		6月25日	徳川慶福、次期將軍に決定する。	
		7月5日	松平慶永、幕府から隠居謹慎の処分を受ける。 左内、中根雪江とともに自刃を決意するが、慶永に止められる。硯箱を賜る。	26歳
		10月22日	幕府の役人が江戸藩邸を搜索し、書類を押収、左内に訊問を行う。	
		10月23日	江戸北町奉行に召喚されて訊問を受け、藩邸内での謹慎を命じられる。	
安政6年	1859		1月8日 5回にわたり評定所で訊問を受ける。	26歳
		10月2日	江戸伝馬町(現東京都中央区小伝馬町)の牢屋敷に投獄される。	
		10月7日	牢屋敷刑場にて斬首される。享年26歳。	

【次回の展示】

- <特別展> 刀に彫る－刀身彫刻の世界－ 3月24日(金)～5月7日(日)
- <企画展> 描かれた福井城と武家屋敷 3月24日(金)～5月28日(日)

松平家史料展示室 展示解説シート No.102
平成29年1月25日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489
担当 藤川明宏

印刷 宮本印刷